

### 3-3. 基本的図書館サービスとあたらしいサービス

多摩市の中央図書館の役割とサービスについて図書館協議会は提言をしています。多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支えるとして、4つの担うべきサービスについて述べています。

#### (1) 「専門的で充実した図書館サービス」を担います。

- 1、各方面の資料、専門書を集め、資料世界の構造化と展示表現を磨きたい。  
・資料規模は大きく、できるだけ開架展示を。公開書庫方式も研究したい。  
・全国で先行している図書館の試みを研究、長期的展望で資料収集と構築。
- 2、充実したレファレンスを。日常の市民の課題解決、ビジネスへの情報支援。  
・職員集団の参考相談業務の技術研鑽方式を、先進市を参考に研究したい。  
・多摩市独自の地域資料、行政資料を充実させてアーカイブ化に導きたい。  
・市民生活に関わるさまざまな課題解決の役に立つ図書館をめざしたい。
- 3、マルチメディアの資料を導入し蓄積したい。  
・音声映像のAVやCDで芸術以外は主題別に混配し構築したい。  
・多摩市に関わるアニメや、漫画表現の主題資料も検討する。  
・地域館でも利用できる雑誌新聞、有料データベースを拡大。
- 4、ICT（インターネットやコンピューター技術）を導入したい。  
・ICチップを資料管理に加えて、混配表現導入を研究したい。  
・自動貸出、予約本セルフコーナーなどの展開を研究したい。  
・専門的データベースを含むデジタル情報資源の提供を検討。
- 5、市外の図書館ともこれまで以上に連携し、役に立つ図書館に。  
・京王沿線七市連携の相互利用制度を発展させていきたい。  
・市内大学図書館と連携して、大学を多摩市のコミュニティメンバーと考え、サービスと協働の可能性を研究したい。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
「4. 中央図書館の役割とサービス」P5-P8より  
多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ左のような課題を上げています。  
基本構想では4つに再編して整理しました。

※ICT環境にはプリンターの連動など制作環境も必要。



静かな目、平和な心、おだやかな資料世界

#### (2) 「全域奉仕・分館支援・アウトリーチサービス」を担います。

- 1、分館と学校へのネットワークに力をいれたい。  
移動図書館にかわる配本車導入など実物支援を充実したい。
- 2、来館困難な方には宅配システムでご希望の本を届けたい。  
広い意味でのバリアフリーな図書館アクセスをめざしたい。
- 3、幼稚園保育園、病院、老人施設ともつながるを目標としたい。  
でかけてゆく、とどける、つながる、をめざしたい。



ブックコンテナで700冊を乗せて出掛ける配本車

#### (3) 「全市図書館システムのセンター機能」を担います。

- 1、蔵書構築と資料保存の機能を整えたい。  
その規模は、基本計画で研究し条件を精査していきたい。
- 2、ICT導入で、情報の流通や資料管理を整えます。  
全市の図書館資料が共通MARCであることの強みを生かす。
- 3、利用者グループや友の会など市民との協働を受入れたい。  
図書への寄贈呼びかけ、受入れで、市民と一体化したい。
- 4、小中学校を支援し、学校図書館の活動拠点になりたい。  
教職員への支援や、児童生徒の貸出密度活性化を支えたい。



開架室の奥、見えて入れる公開書庫という形式

#### (4) 「多様な市民活動を支えるサービスと場の提供」を担います。

- 1、施設のバリアフリー対応は、新しい法律に準拠を。アクセスにミニバスがあってほしい。
- 2、催事企画もコミュニケーションサービスとして重視したい。  
他市図書館のコミュニティ担当の業務を研究しておきたい。
- 3、展示やカフェなどの交流機能を、施設計画時に検討したい。  
市民やグループが自由に使える集会や展示の場を造りたい。
- 4、自由な集会機能、ラーニングコモンズ、創作活動の場など  
図書館を舞台にした市民活動の場を、複合的に計画します。



ギャラリーフリースペースで、小学生の管弦楽

さらに提言で想定された活動に留まらない、自由で自律的な広場機能も企画します。

#### (5) 「時代が求める新しい図書館サービス」を担います。

- 1、子どもたちにとっての「愉快的広場」・ベビーカーで立ち寄れる子育て広場。  
・ゲームや遊びも取り入れた、にぎやかなスペースもとりいれたい。  
・紙のしっかりした絵本、障がいのある子どもにもマルチメディアサービス。
- 2、若者にとっての「たまり場」・多摩市が舞台のアニメ、マルチメディア資料。  
・若者が、映像、音楽、コンピュータグラフィックスなど自ら制作できるICT環境。  
・グループ学習、ラーニングコモンズ機能など、若者の居場所。
- 3、おとなにとっての「知の広場」・充実のレファレンス・日常市民の課題解決。  
・ビジネス情報支援・働き盛りのための図書館・多摩の地域資料/行政資料。  
・ニュータウンアーカイブ・文化財展示・カフェ・自由広場・集会・展示。

※出典：平成28年10月  
第五回多摩市立図書館  
本館再構築基本構想  
検討委員会より

※地場産業や商品を応援する  
地域振興ではなくて、知的  
な地域再生を支援するのが  
これからの図書館の使命だ。

#### ◎ トピックス：ICTなどの技術革新は、働き方、生活課題、学び方に変化を要求しています。また、社会関係の変化も個人に対応をせまっています。時代と社会の変化を整理して課題解決型図書館が議論されました。

- ①. 「自己判断自己責任」型社会への移行は、あらたな「格差」をつくっている。  
企業や行政だけでなく個人も変化する社会に対応してゆくには、自ら調べ考え判断する行動様式が求められるが、「正確な情報が公平に提供される」社会のインフラが必要になる。図書館は、これまで以上に情報提供の社会インフラとしてのサービスを深化させていく必要があると想像される。
- ②. 市民の情報環境は変化し、従来の情報システムには限界がみえている。  
読書のかたちは、通読型だけでなく、並列型、ピックアップ型、情報収集型に移行するが、マスコミ、出版流通、インターネットは情報システムとして限界を露呈した。専門書は流通が稀少で入手困難、インターネットは体系的網羅的な知識や考え方に対応しない。マスの情報網に対峙する図書館が必要だ。
- ③. 発生する「課題」は複合的であり、公立図書館特有の総合性が有効となる。  
文科省の社会教育調査で、公共施設の中で図書館が最も利用が多いとわかった。どう使えるかが周知され、出会いの広場であることも要因だが、人生で起こる問題は複合的、個別専門的相談機関では役に立たない。総合的な分野の情報がストックされた図書館はワンストップ相談窓口、あとは使い方相談が必要だ。
- ④. まちづくりや医療介護分野に「課題解決型サービス」が各地で展開されている。  
○農林漁業・地元企業・商店への仕事情報提供、勤労者再教育などビジネス支援サービスは、資料を越えて関連機関と共同した相談・講習・催事・事業に展開。  
○地域への医療介護情報の提供では、インフォームドコンセントの為のセカンドオピニオンとして拠点病院の情報提供や自治体の医療費削減政策と連携する。  
○訴訟社会への動向に、地域への「法律情報提供サービス」が米国ではみられる。  
○行政首脳や各部門へ、政策判断・研究に資する情報提供や調査レファレンス、行政事務の効率化や職員の自己研修支援など「行政支援サービス」といわれる。  
○市町村議会議員の活動を情報収集・政策作成面から支援するサービスがある。  
○行政庁舎や行政資料室は土日閉庁であり、図書館が行政情報を市民に提供する。  
○乳幼児・児童の言語能力の育成、青少年の論理的思考能力の向上、成人労働者の情報リテラシースキルの習得、デジタル社会での就業スキル習得支援など、福祉・教育・労働など他部門の「行政施策と関連し連携する図書館サービス」。
- ⑤. あらためて、市民一人ひとりの課題を解決できる図書館の条件を掲げたい。  
○情報の専門職「司書」が必要な人数採用され、市民の情報収集をサポートする。  
○娯楽的教養的な目的だけでなく専門的多面的な方針で、本、雑誌が収集される。  
○有料のデータベースや電子書籍、AVマルチメディア資料が、無料で提供される。  
○近隣都市連携のように、都立、国会、大学図書館と盛んな相互利用を仲介する。  
○市民が自由に交流・活動し、創造につながる支援までサービスの視野に入れる。  
○館内にWi-Fi、電源などを整備して、PCの利用環境を整備する。

※米国シアトル図書館には、400台のPC端末が並んでいるが、インターネットではなくて、有料データベース利用を市民は目的にする。

※ビジネス支援はあたらしい  
図書館サービスの概念では  
ない。個人の自己実現を、  
図書館という組織が使命と  
考えているということだ。

※鳥取県立、秋田県立、  
都立中央、浦安市、立川市、  
田原市、広島市、小山市、  
塩尻市、伊万里市の事例。

※がん対策基本法、  
※医療専門司書の存在、  
※信大医学部図書館と松本  
図書館、がん研東病院と  
柏・流山・野田図書館の  
連携。図書館の医療相談  
デスクに看護師がいる。  
※浦安図書館は2病院に本  
を届け、患者の明るい気  
分づくり読書を支援する。

※日野市、浦安市、ほか  
議員別に政策チラシの  
ファイルが作られている。  
※行政書士とも連携する。

※浦安市図書館のAV資料数、  
有料データベース資料と  
比較研究が分かりやすい。

※塩尻図書館にあるフリースペース（公共図書館のラーニングコモンズ）、3次元プリンターのあるメーカーズスペースなど創造活動支援も図書館だ。

※多摩の図書館では2010年  
から有料データベースと  
して大宅壮一文庫のWeb  
配信。(雑誌1万種70万冊  
索引500万件の過去資料)

※利便な駅なか図書コーナー。  
浦安市立図書館は、市内  
3駅に高齢者雇用の奉仕  
拠点を持つ。年間貸出数  
は20万冊、全市の貸出  
200万冊の10%を担う。

#### ※参考資料

- ・『未来をつくる図書館』菅谷明子
- ・『税金を使う図書館から税金を作る図書館へ』松本功
- ・『図書館のめざすもの』竹内さとる
- ・『課題解決型サービスの創造と展開』大串夏身
- ・『ビジネス支援図書館の展望と課題』(財)高度映像情報センター2006.
- ・『特集：ビジネス支援事始』みんなの図書館06.6.・『特集：ビジネス支援』現代の図書館03.6.
- ・『特集：図書館サービスとしてのビジネス支援』図書館雑誌2003.2.
- ・『図書館があなたの仕事をお手伝い』ビジネス支援図書館推進協議会2010
- ・『特集：カラダと病気の情報を探そう』みんなの図書館03.9.『健康・医学情報を市民へ』JML叢書
- ・『図書館における医療・健康情報の提供』現代の図書館05.12.
- ・『医療・健康に特化した地域連携パスファインダー「メディカルパス」』図書館雑誌12.4.
- ・『特集：法情報へのアクセス拠点としての図書館』現代の図書館04.4
- ・『特集：図書館における法情報提供サービス』図書館雑誌08.4
- ・『法情報サービスと図書館の役割』指宿信
- ・『アメリカ：公共図書館の商用データベース提供』
- ・『市立図書館の改革-知識創造型図書館へ』図書館界63巻2号・『MAKERS』クリスアンダーソン



### 3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

多摩市の中央図書館とまちづくりを、市民と図書館と一緒に考えてゆくべきです。施設づくりについても基本計画から情報開示と市民協働が大切です。図書館づくりには、資料、職員、施設の3要素で議論するのが常ですが、それぞれの要素中にも「もの/施設」と「こと/活動」が入っていて、大切な検討の視点になるのです。

多摩市の中央図書館の役割とサービスの中で、図書館協議会は提言をしています。定期的な利用者懇談会の開催や、市民企画展示、市民活動紹介、積極的な市民の意志の取り込みにふれて、その根本は、一人ひとりの求めや利用者ニーズに向き合う職員のあるべき姿であるとしています。そして職員の専門性と採用方式の重要性に視点をつなげて提言がされています。

※人の活動（こと）を深く想定しない施設建設は箱物政策と揶揄されます。基本構想や計画でも、箱（もの）から始まる議論に偏らず、「こと」に注目研究するのが、近年の図書館建築計画学の基本スタンスと言われます。

※出典：平成22年4月  
多摩市立図書館協議会  
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」  
地域コミュニティの中核として、より

#### ① どんな資料世界をつくるのか。

こうした議論や計画の前提には、求められている資料や、人や利用のかたちに想像をめぐらす時間があり、それが「こと」のデザインの段階です。

資料の収集では、新刊案内やリクエストを基礎に選書されたり分類が精査され、装備やMARCが決められています。これからは、5年先10年先の開架世界のビジョンを先に定めて、配架や分配を考え複合検討をしたり、構築の優先順序が必要になります。先に骨格を造りあとで肉をつける形式や工程の計画を考えるデザインです。100人の意見を聞くだけでなく、全体を俯瞰して判断する中枢・司令塔が重要で、それが中央図書館の存在理由となります。

#### ② どんな施設環境をつくるのか。

場の計画の前提として、そこで想定されている活動や、はたすべき機能の量や質の概要を想定する必要があります。図書館施設計画の領分であり、もののデザインです。活動と施設は相関関係があって、施設の不備は活動やその将来の成長を制約して、施設の寿命を短くもします。ことは、ものより先に考えるべきです。他方、魅力的な環境は想像以上に活動を誘発し成長させることもあります。「こと」（出会いや発見や学びや喜び）のデザインは、容れ物である場とともに想像することで、創造的に膨らみます。例えば図書館では、いかに少人数で開架室を運営できるか、それが可能な施設かが、ランニングコストやライフサイクルコストのマネジメントに大きく関係します。経営に叶うことも必要です。

#### ③ どんな図書館員が図書館サービスを担うのか。

図書館は75%が図書館員で出来ていると言われてきましたが、正確には、図書館政策であり職員組織であり図書館員個人の意欲とスキルに関わっているということです。基本構想策定委員会は、①図書館サービスを市の直営で行うことの利点②職員が専門性を発揮し職場全体で業務遂行③職員採用や作業内容に見合う職種の活用による人事計画性④専門性継承と将来に向けての持続可能な経営（業務や開館時間に関連）など、今後の研究に方向性と示唆を与えています。経営と人事に関わる「こと」のデザインです。

#### ④ 主体的で自律した市民はどんな協働を想像するか。

多摩市の40年の図書館政策は、図書館を良く知りよく利用する市民を育てました。市民も生涯学習や自己実現を求めて、お話し会や点訳朗読奉仕や催事の協働など、図書館での活動を広げました。中央図書館が出来ることで、より多くの多様な市民が、図書館で活動を展開するでしょう。こうした市民の生涯学習やボランティア活動をコーディネートする担当が図書館に必要です。また催事などでは市民の側にも、協働という「こと」のデザインを想像して展開させる、図書館フレンズのような活動もありそうです。



ライブラリーフレンズが「本のリサイクル市」



図書館パティオの日曜日「フリーマーケット」



学校図書館司書さんと一緒に「図書館研究会」



市民が「図書館の誕生日」を祝う

## 第四章 中央図書館づくりの進め方

### 4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

### 4-2. 資料世界構築と開架の配架表現

### 4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

### 4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

※各頁の文章を補完する挿入写真は、活動のイメージをお伝えするための各地の図書館の風景です。